

2025
01

FLAP.

P.2 現役生による学術オリンピック体験記 言語学オリンピック

P.4 入門! プロダクトデザイン

P.6 PASSPORT #10 アメリカ大学留学体験記



Komaba FLAP.
for learners and pioneers.

現役生による

学術オリンピック 出場体験記

今回の執筆者：

相澤 遼太 さん

筑波大学附属駒場高校2年
第5回アジア太平洋言語学オリンピック金賞
2023国際言語学オリンピック銅賞



言語学オリンピックは、毎年12月に開催される日本言語学オリンピック（JOL）から始まります。この大会は中高生であれば誰でも参加可能で、成績上位者が4月のアジア太平洋言語学オリンピック（APLO）に進出します。さらにAPLOで国内上位8名に入ると、夏の国際言語学オリンピック（IOL）に日本代表として挑戦する機会が得られます。世界各地の予選を勝ち抜いた学生たちと競い合う貴重な体験が待っています。

受験のきっかけ

中学生の頃、先輩から言語学オリンピックの話聞き興味を持ちました。公式サイト例题を解いてみたところ面白いと感じたので、挑戦してみようと思いました。しかし、中学時代は日程が合わなかったり勇気が出なかったりして受験しませんでした。初挑戦は高校1年の冬で、もっと早く受ければよかったと思っています。中学生の皆さんでも十分に高校生と戦えるので、積極的に挑戦してほしいです。

JOLに向けた対策（1年目）

対策を始めたのは試験の2週間前頃でした。過去問以外特に取り組む必要はないかなと思います。最初は時間を測らず、大問1つをじっくり解き、解答解説を見ながら学習しました。公式解説はありませんが、過去の受賞者のブログなどが役立ちました。もちろん同じ問題は出ませんが、問題を解く思考プロセスを学ぶことが重要です。一方で、試験形式（120分で大問5題のことが多い）に慣れるため、早めに制限時間内で解く練習も進めておくと良いと思います。

対策のポイント

言語学オリンピックでは、知識よりも思考力・分析力が求められます。過去問に多く触れ、問題の傾向を把握することが一番の対策です。公式サイトにはJOLの過去問が掲載されているほか、「ことはじ」というサイトでは難易度別にAPLOやIOLの問題が載っているほか、非公式解説のリンクが載っている問題もあります。これらを活用して、問題に対するアプローチ方法を身につけましょう。

JOL本番

新型コロナの流行が始まって以降JOLは自宅で受験する形式になっており、解答はスプレッドシートに入力します。問題はPDF形式で配布されますが、印刷して書き込むと効率的です。PDF編集ツールの使用に慣れている場合はそれでも問題ないですが、いずれにしても手を動かしながら考えることが大切です。色鉛筆やマーカーを活用すると、分析や整理がしやすくなります。私は問題との相性がよかったこともあり、目標としていた努力賞を上回り金賞を受賞することができました。その結果、APLOへの進出が決まりました。

APLOに向けての勉強（1年目）

APLOはJOLと形式が似ていますが、解答には「答えに至る過程の説明」が必要になります。数学の証明問題のようにきちんと文章で書く必要はなく、箇条書きや表で記述すれば問題ありません。過去問を繰り返し解いたり、解説サイトを見たりしながら、説明方法にも慣れていくと良いでしょう。APLOの問題は難易度が高く、満点を取る人はいません。分かった規則を基に点をもぎ取ることが大切です。

APLO本番

会場は東京外国語大学の講義室で、試験時間は5時間でした。軽食や飲み物の持ち込みが認められていたので、片手で食べられるものを持ち込みました。問題は難しく、5時間思考し続ける忍耐力も必要でした。結果は22位でIOL進出には届きませんでした。十分に楽しむことができました。

2年目の挑戦

1年目の経験があったため、試験1週間前から過去問に取り組みました。数問解くだけで感覚を思い出し、効率的に準備が進みました。JOL2025では、大問が3つしかなく、大問3の配点が全体の6割を占める形式でした。私はその大問3との相性がよく、金賞を再び受賞できました。しかし、目標であるIOL進出には言語学の勉強や過去問の演習を増やすことも必要だと感じています。

解答のコツ

問題との相性が悪くても、解き方の基本が身につけていれば安定して点を取れるようになります。言語学オリンピックは複数の例文から共通点を見つけ、規則を発見するゲームです。語順や時制、単複などを中心に探ると解きやすいと思います。一方で、英語に不規則動詞があるように言語は規則だけでは説明できないものもあります。地域によって文化も異なるように、言語に関してもその地域の人の気持ちになって考えると、何か見えてくることがあります。

さいごに

言語学オリンピックは他の科学オリンピックと比べて必要な知識量が少なく誰でも挑戦しやすいことが特長です。「何か科学オリンピックに挑戦したいけど得意分野が特にない」と言った人に特におすすめ。また、オリンピックとは関係なしにパズルとして解くだけでも楽しめると思います。ぜひ一度問題を解いてみて、言語学の面白さを味わってください！

プロダクトデザインの

生活の中で関わるであろう
ほとんどの製品の“形”をデザインする

「デザイン」と聞いて、皆さんはどのようなものを思い浮かべるでしょうか？
文化祭のポスターなどの「グラフィックデザイン」、人の動きや体験を設計する「UI/UXデザイン」、
さらには人々のつながりや仕組みを形作る「コミュニティデザイン」...

一口にデザインと言っても、多岐にわたる分野が存在します。
その中で、私が取り組んでいるのは「プロダクトデザイン」です。プロダクトデザインは身の回りのあらゆる「モノ」の形を考える分野であり、皆さんが生活の中で関わるであろう様々な製品を設計し、より最適化され使いやすくなるように日々試行錯誤しています。

異なる分野からの影響や制約を知り、それを活かして新しいモノを生み出す

デザインのなかに多岐にわたる分野があるのと同様に、デザイン自体が他の様々な分野と関連しており、常に新たな学びを得られることがデザインの魅力だと考えています。
授業の中で学んだ事例としては、デザインとはかなり離れた位置にあるように感じるであろう文化人類学との接点です。ある製品をデザインする際には、それが使われる社会の価値観や習慣を理解しなければ、ユーザーに受け入れられるものにはなりません。実際に、A国で製造して成功した商品をB国にそのまま輸出したところ、B国における宗教的価値観から受け入れられる形状/カラーリングではなかったため、全く売れなかったという事例がありました。こうしたリスクを回避するためにも、各国社会についての知見を溜めておくことが大事になります。
また、工学的な知識も欠かせません。量産に適したデザインを実現するためにはプラスチック部品や金属パーツを加工整形する金型が必要不可欠であり、金型製作時の制約を知らなければ設計図が単なる机上の空論になってしまいます。
このように、異なる分野からの影響や制約を知り、その学びを活かして新しいモノを生み出すことこそが、デザインの醍醐味だと感じています。

プロダクトデザインの魅力

入門！プロダクトデザイン

世の中にある数多の学問。
中高生の皆さんにとっては、「聞いたこともない」「名前しか知らない」「何をやっているかよく分からない」、そんな分野も沢山あるはずですが。このコーナーでは、各学問の学習や研究に取り組んでいる先輩を「先生」としてお呼びし、学問の内容や魅力を伝えて頂きます。

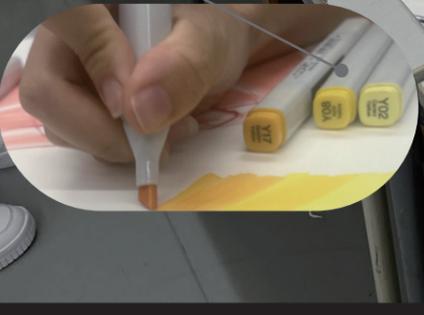
この一枚

スケッチの授業での一コマ。イメージを膨らませるためのラフなイラストから、製品のイメージを強調しつつ伝えるための精細なスケッチ（レンダリング）が並んでいます。



[Copic]
スケッチ用のマーカーです。膨大な色があり、スケッチする際には10段階の濃さのグレーと数色の明るい色を使うことが多いです。インク補充の時に手を汚しがち。

[マーカースケッチ]
近年ではPhotoshop等を使ったデジタルでのスケッチが主流のようです。手描きでスケッチすることで、頭の中でふわふわしていたイメージが形として「言語化」されるような感じがします。



今回の"先生"は... 福田 正智さん

筑駒71期OB。
千葉大学法政経学部 / 専門学校桑沢デザイン研究所プロダクトデザイン専攻。
中高では文実装飾部門、食品班長やデザイン担当などを務めていました。



先生の日常

毎日、何かしらを作っています。

毎日、何かしらを作っています。最近課題で作ったのはドライヤー。自分自身が普段からこだわって使うものではない分、既に売られている製品の分析が大変でした。イメージになる画像集めからスケッチ・簡易的なモックアップの試作・製図/3Dデータの作成・プレゼンと、毎日がめまぐるしく過ぎていきます。工作室で3Dプリンターやバンドソーと向き合う作業は、時に苦しくもありながら、最高に楽しい時間です。

「未来がこんな製品で溢れていたらいいな！」と感じさせられるプロトタイプの数々に心を奪われました

高校生の私は、文系の学問、特に政策学などは、多様な知識を統合しながら社会全体に影響を与えるものだと考えていました。一方で、理系の学問は（今思えば大分偏った見方だったので）

現象の解明が主であり、その応用範囲が限定的だという印象を持っていました。そんな中、高校3年生の頃に東京大学生産技術研究所で行われていた山中俊二教授の退官記念展示を見に行ったことが、大きな転機になりました。展示会の題は「未来の原画」。使い道が決まっていない先端技術(素材)をどう活用するか提案する展示が多くあり、手描きとは思えない美しいスケッチと、何よりも「未来がこんな製品で溢れていたらいいな！」と感じさせられるプロトタイプの数々に心を奪われました。さまざまな分野の成果を組み合わせ、最終的に形を与えて社会に送り出す作業、これこそ私がやりたかったものづくりだと思ったのです。

今では、ものづくりと仕組みづくり両方を学びたいという気持ちが大きくなっており、専門学校でプロダクトデザインを学びつつ、大学で政治学・政策学を勉強しています。

プロダクトデザインの先生と

PASSPORT



はじめまして、このコラムを通年担当している水谷友哉です！筑駒70期で、在学中は軟式テニス部と語学部、高3の時の特別班はステージ班をやっていました。今は理科一類に在籍しています。今回は、自分の留学体験をみなさまにお伝えします！私は大学2年生の夏から大学3年生の春にかけて1年弱、大学のプログラムを活用して、ボストンにあるノースイースタン大学という大学に留学していました。今回はなんで留学することにしたのか、大学での交換留学はどんな感じなのかお伝えしていきます！

#10 アメリカ大学留学体験記

全学交換プログラム

東大には全学交換プログラムと呼ばれる在學生なら誰でも申請することができて、留学することができるプログラムが存在します。31カ国・地域の大学と連携を結んでいて、連携校はなんと88校とグローバルな留学ネットワークを築いています。大学を通しての交換プログラムなので、安心ですし、授業料も東大に払っていれば、留学校への支払いは免除されます。なんてこともないよう感じられますが、特に英米を中心とした大学は授業料がとても高いので、それを気にしないでのよいのは大きな利点です。似たような留学プログラムはさまざまな大学でも展開されていますので、ぜひ調べてみてください！

留学を志したきっかけ

高校の時から留学をしたいと考えていて、実は一度、正規の海外大学への進学を検討していた程でした。結局、東大に進学することになりましたが、海外大学で過ごしてみたいという想いは変わらずあり、大学で留学することにしました。理由として一番大きいのは、自分自身の力を異国の地で確かめてみたかったというのがあります。日本では「肩書き」がずっと存在し続けます。「高校生」であったり、「東大生」であったり、肩書きが存在し続け、そしてそれを起点とした環境が構築されがちです。留学をすることで、右も左もわからない状態の中、いわゆる肩書きがない状態から、人間関係を築き、生活基盤を整え、生きていくことができるのか、その力を養いたく、留学をしたいと思うようになりました。

留学先での学習

東大の前期教養課程に在籍中に留学したため、留学先でも専攻に囚われることなく、伸び伸びと自分が履修したい授業を履修することができました。ノースイースタン大学では東大ではないような授業が多く展開されており、技術倫理の授業や、写真撮影の授業、パブリックスピーキングの授業など、多様な授業が開講されていました。アメリカではリベラルアーツ教育がメジャーで、自分の専攻外の授業も取ることが推奨されています。そのため、例えば環境倫理の授業でも、哲学を専攻している人、環境工学を専攻している人、言語学を専攻している人など多様なバックグラウンドを持った人が履修していて、互いに刺激を与え合う良い環境でした。また、東大と比べ、教授と学生、学生同士など、双方向性、多方向性の授業デザインに重きが置かれていたため、より一層自分の意見を発信し、授業に貢献することが求められる環境でもありました。その緊張感も成長を引き出してくれました。

留学のおススメポイント

ありきたりですが、留学は価値観が変わります。そして、たいてい価値観が変わったことは留学に帰ってきて初めて気づくものです。私の中で一番良い変化だと感じているのは、良い意味で周りからの目を気にしなくなったことです。前までは周りからどう見られているのか気にしていましたが、現地でそれを気にしている人は少なく、変化の起点となりました。また、長期留学の利点として仲良くなった人と長期間一緒にいるので、その後も関係性が続きます。私も、留学から帰ってきてまだ1年経っていませんが、現地の友達複数人と日本や他の国で再開しています。ずっと続けかけがえのない人間関係を築ける点も留学の素晴らしいところだと思います。

ボストンのおすすめ季節は秋。ボストンでは、紅葉が綺麗で、ハローウィンにはBeacon Hillと呼ばれる高級住宅街で様々な装飾を楽しめます。友達と行ったのが良い思い出です。また、長期休暇中にアメリカ西海岸や、カナダに旅行することができたのも、なかなかできない経験でした。



ボストンおすすめポイント

ボストンはアメリカの中だと治安も良く、住環境や交通の便もよく、とても住みやすい街です。また多くの美術館や博物館は大学生だと無料で入場することができ、文化的にも優れて街です。特に、MoFA(ボストン美術館)は20世紀初めに、岡倉天心がキュレーターとして在籍していたこともあり、日本庭園「天心園」があるほか、世界屈指の日本美術のコレクションも展示されています。

Komaba FLAP. 企業パートナーシップのご案内

NPO 法人 Komaba FLAP. では、児童生徒の才能支援に向けた様々な活動を実施しております。

研修プログラム等参加費支援

生徒の興味関心や意向に関する調査実施

科学オリンピック各種大会出場支援

広報誌や講座を通じた興味関心訴求

こうした活動をより多くの児童生徒に届けるため、活動趣旨に共感、ご協力戴ける個人様、企業様を募集しております。

個人様からの寄付

ご子息ご息女・特異な才能を持つ未来ある若者への支援にご協力ください。
ご支援戴ける金額に合わせ、年間 12,000 円の賛助会員、年間 60,000 円の特別賛助会員を設定させて戴いております。



寄付受付ページ：
<https://komaba-flap.jp/donate/>

法人様との企業パートナーシップ

広報誌での企業ロゴ掲載の他、企業名を冠した奨学金の設置など、様々な形で協働できますと幸いです。
金額、パッケージ等詳細は下記メールアドレスにご連絡いただき、ご相談させて下さいませ。

ご相談窓口：info@komaba-flap.jp

皆様からのご支援を賜れますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



無料LINE会員募集中！

- ◆ 興味関心に合わせて情報をお届け！
- ◆ 広報誌『FLAP.』読者プレゼントに応募可能！



LINE登録はこちらから

読者プレゼント

各特集ページのライターからオススメの1冊をプレゼント！

- | | |
|------------------|----|
| A賞：『デザインの骨格』 | 1名 |
| B賞：『パズルで解く世界の言語』 | 1名 |

応募は公式LINEから！

専用フォームに今月のキーワード『レンダリング』を入力して応募してください！

応募締切：2025年4月30日(水)中

Komaba FLAP. 企業パートナーシップ みなさまのお力添えで、学びはさらに深化します

GOLD PARTNER

